



つむぐ

浜松市教育研究会
研修主任研究部
研修だより No. 1
令和7年 6月11日

今年度は、「教師の資質向上を支援する充実した校内研修の創造～主体的・対話的に学び続ける教師集団の形成を目指して～」というテーマのもと、研修がスタートしました。

研修は教師の学びを促す役割があり、研修主任は、自校の研修をリードすると共に、各教師が充実した研修に参加し、よりよく学ぶことができるように支援する役割があります。本研究部では、今年も、各学校の研修がより充実したものとなるよう、研修主任同士の意見交換や情報交換の場を多く設定し、互いの学びを支援していきます。

私たち研修主任が主体的・対話的に学ぶことによって、子供に身に付けさせたい資質や能力、教師の資質を向上させる授業デザインへの理解が深まります。本研究部一丸となって、今年度の実践を進めていきたいと思えます。

第1回研修主任研修会

5月28日（水）に本年度1回目の研修主任研修会を開催しました。

顧問校長である御手洗実先生（南部中学校）から、研修主任として今抱えている悩みや不安が少しでも軽くなることをねらいとして、私たち研修主任の悩みに答えてくださる形で講話をしていただきました。

先日のアンケート結果を見ると、「先生方が主体的に研修に取り組むために、どのような手立てを打つべきか」、「あまりに多忙で、職員室内に研修を充実させようという雰囲気がない」という悩みが全体の3割程度挙がりました。その悩みを受け、御手洗校長は「心に灯をつける」ために必要な六つの手立てについてお話してくださいました。

一つめは、研修観の転換が求められていることを伝えていくことです。令和4年度の中央教育審議会答申では、「新たな教師の学びの姿」示されました。教師の学びは子供の学びの相似形であると言われています。子供のロールモデルとなり、「探究心をもち自律的に学ぶ主体的な姿勢」「継続的な学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」を研修主任としてリードしていくとよいことが分かりました。

二つめは、心を揺さぶることです。「勉強」と「学び」の違いを挙げながら、研修のイメージをポジティブに変換できるようにしていくことが大切なのだそうです。研修は本来、各々が能動的、主体的に行うべきものです。思いをもっていても、日々の業務に追われていると研修はつい後回しになってしまいがちです。どうしたら楽しく研修ができるのかを意識して研修を構想させていく必要性を感じました。

三つめは、職員のベクトルをそろえることです。そのためにも、研修の目的をはっきりさせることが大切です。このことに関連して、南部中学校の校長室だよりから「呐喊」という言葉を紹介していただきました。研修主任として、学校全体を動かすとき、先生方の思い、教科の魅力、教科の本質、手法などの一部にフォーカスしてしまうと、大事なことを見失うことがあるのかもしれません。同じ「木」（目標）に向かい、その「木」にたどり着くために力を結集する。私達は大きなベクトルを常に「希望」へ、「未来」へ、「成長」へ、「幸せ」へ



と向けていくことが大切だと学びました。

四つめは、「無理なく、楽しく」を大事にすることです。「みんなでやると楽しい」「子供が成長していることが感じられると楽しい」ということを実感しながら、自分自身が楽しんで研修していくことが大切です。これに関連して「発達最近接領域」についても触れていただきました。少し背伸びすることはよいけれども、急に無理をすると苦しくなってしまいます。このようなことも提案していけるとよいのではないかと思います。

五つめは、職員室の空気を作る存在になることです。具体的に言うと、二人の味方を作るとよいそうです。二人では線でしかなかったものが、三人になると面になります。提案したいことを具体的に示したり、アナウンスをしたり、職員室で対話をしながら空気を作り出していくことで、周りの先生方からの共感が起こることが示されました。

六つめは、普段の授業を「問い直し続ける」姿勢を持つことの大切さです。視点をもち、日々意識して取り組むことで子供たちの力が付いていきます。そして授業力の向上にもつながります。それが「希望」や「未来」、「成長」、「幸せ」につながっていきます。その視点として、「子供たちに本当の力をつけているか、本当に力がついているか」を意識するとよいことが分かりました。もしかしたら、私たちは普段、客観的に自分を見つめ直し、自分自身を問い直すことはなかなか難しいのかもしれませんが。時にはお互いに声を掛け合い、議論することで気づきを得ることも必要だと考えました。

さらに、「どのように校内研修を企画・運営していったらよいか」、「自分自身の研修不足によって自信が持てない」という悩みにも答えていただきました。その中で、「リーダー像は様々。あなたらしいやり方でいい」、「あなたを苦しめる高い壁は、いつかあなたを守る盾となる」、「『その時の精一杯』でいい」などのメッセージをいただきました。御手洗校長からの言葉には、私たち研修主任への思いや愛に溢れていました。同時に、具体的な道筋を示してくださり、多くの先生方が「こんなことをやってみよう」「こんなこともやってみたい」とたくさんのヒントを見つけられたと思います。まさに、先生方の心に灯がともった瞬間でした。

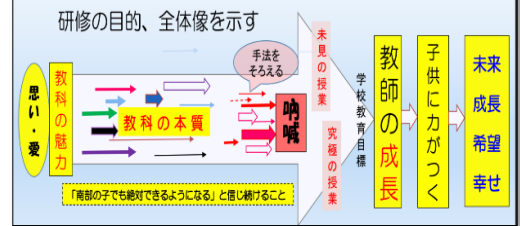


その後、小学校、中学校の校種別で分かれ、研修主任経験1年目、2～3年、4～5年、6年以上の先生で構成されたグループで、各校の校内研修について情報交換を行いました。自校の研修構想や研修計画についての資料を持ち寄り、お互いの校内研修での実践や運営、実際に抱えている課題や自身の悩みや不安について話し合いが行われました。どのグループも終了時間ぎりぎりまで活発な意見交換が行われ、会場は大いに盛り上がりました。校内で研修を進めていく上での悩みや疑問、夏季研修の内容や進め方など、他の学校での取組が大きなヒントになった方も多かったのではないかと思います。もっと他の学校の実践について知りたい、自分の不安や悩みを聞いて欲しい、そんな雰囲気伝わってくるようでした。改めて、他校との情報交換がお互いの校内研修を進める上で効果が高いこと、校内の先生方はもちろん、校外の先生方とも対話を通して得られるアイデアがとても重要であることを実感しました。

今年度も研修会を通して、研修主任同士で情報交換の場を設け、自校の研修に役立つ時間を提供できればと考えております。御協力のほど、よろしくお願いします。

⇒ **ベクトルをそろえる**

…「木」が見えるから歩いて行ける



(文責 北浜東小 野末 侑理)